

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



土浦平和の会

ニュースNo. 223 2010年 9月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

原水爆禁止 2010年世界大会・広島決議

広島からのよびかけ

広島・長崎の被爆から65年―「ふたたび被爆者をつくるな」「核兵器をなくせ」という被爆者の声は、世界の揺るぎない流れとなっています。

今年5月のNPT再検討会議に690万余の署名を積み上げ、1600名もの代表を派遣した私たちの行動は、核兵器廃絶を求め大波となって国連本部を包みこみ、「核兵器のない世界」の実現は国際政治の明確な目標として再確認されました。広島での平和祈念式典に出席した瀧基文国連事務総長も、被爆者が生きているうちに核兵器廃絶を達成しようとよびかけました。

いま必要なのは、核兵器全面禁止・廃絶条約の交渉をすみやかに開始することです。しかし核保有国は、期限を設けた廃絶交渉に反対しています。その根底には、被による脅迫で自国の安全を守ろうとする「核抑止力」論があります。これこそが「核兵器のない世界」実現にとっての最大の障害です。

被爆国であるにもかかわらず、アメリカの「核の傘」のもとにある日本の在り方は、とりわけするどく問われています。日米軍事同盟の強化をねらう菅政権のもとで、アメリカの核持ち込みを公然と認める『非核三原則』の空洞化が検討され、普天間問題でも「日米合意」による沖縄への基地押しつけが強行されようとしています。私たち日本の運動の役割はますます重要になっています。

原水爆禁止 2010年世界大会に参加した私たちは、つぎの行動をよびかけます。

核兵器廃絶条約の交渉開始を求める声をさらに大きく広げましょう。「核兵器のない世界を」署名をはじめ、国民の声を結集し、世界の諸国民と連帯する多彩な行動を発展させましょう。広範な人びととの共同、自治体ぐるみ、住民ぐるみの運動をさらに発展させ、地域・職場・学園に「核兵器のない世界」を求める強固な世論を構築しましょう

アメリカの「核の傘」からの脱却を日本政府にせまらしましょう。「核密約」の破棄、「非核三原則」の厳守と法制化、「非核神戸方式」の普及・拡大、「非核日本宣言」の運動をさらに発展させましょう。沖縄の人びとをひとつに米軍曹大間基地の無条件撤去を求め、新基地建設に反対しましょう。米軍基地の再編強化と自衛隊海外派兵に反対し、憲法9条を守りいかす運動、軍事費削減、いのち・くらしと雇用を守る運動をいっそう強めましょう。

被爆の実相をさらに解明し、これを学び、世界にひろめることは、核兵器廃絶条約を求める世論を強め、「核抑止力」論を打破するうえでも決定的に重要です。被爆者の体験と意見を聞き取り、映像・活字などあらゆる形で記録して、発信・普及・共有していく運動を、「人類的な事業」としてくり広げましょう。原爆症認定集団訴訟の成果を踏まえ、原爆被害の実態に即した被爆者行政へ抜本的に転換させましょう。

核兵器や軍事力で平和を守るという「抑止力」論を打ち破るため、いまこそ大いに学び、国民的議論を巻き起こしましょう。被爆音とともに、そして若いエネルギーを結集し、「核兵器のない世界」の実現にむけて前進しましょう。

ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ヒバクシャ

2010年8月6日 原水爆禁止 2010年世界大会・広島

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
 私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

あまり知られていない原子力施設の事故

茨城県原発を考える会（中村敏夫会長）が発行している住民運動ニュース「げんぱつ」の最新号に 7月23日原子力機構・プルトニウム燃料第1開発室で起きた火災のニュースが掲載されています。この事故は一般県民には知られていませんが、まかり間違えれば第2のJCO事故にもなりかねない事故です。同日9時53分に発火を確認して作業員が消火に当たり、9時55分ごろに東海村消防署に報告したと言います。

原子力機構の説明資料によると国およびIAEA（国際原子力機関）により行なわれる核燃料物質の実在庫検認の準備として収納容器の移動作業をしていたという。

「火が出るはずがない」ものから発火した

発火したのはMOX燃料の「窒化物燃料」で、収納していた容器が倒れてふたが外れて発火したと言います。この燃料は熱伝導性が良いことに着目してこれを検討しているのは東海と大洗だけであり、一般には不活性であるが同研究機構は「粉末状の窒化物燃料は活性である」として「室温で火が出ることはありえない」としながらも出火の対象と見ていると言います。

「もんじゅ」炉内で3トンパイプ落下事故

ナトリウム漏れによる火災事故で14年間運転停止であった日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」（福井県敦賀市）は5月に試験運転を開始したばかりですが、8月26日燃料交換時に炉内で重さ3トンの金属パイプが落下する事故を起こしました。落下の原因や、落下による影響はまだ分からないと言いますが、原発問題住民運動全国連絡センター代表委員山本氏は「もんじゅ」は建設開始から25年の老朽原発です。今回のような事故が起きるのも老朽化が原因ではないかと不安だと語っています。

また県の安全環境部長は「県への通報は発生から1時間半後で、迅速とは言いがたい」と苦言を呈したと言います。（8・28赤旗記事）

ロシアの森林火災の環境への影響は？

住民運動ニュース「げんぱつ」紙は1986年のチェルノブイリ原発事故で汚染された森林地帯でも火災が起きていることを報道しています。今度の火災分布地図と先の放射能汚染地図を重ね合わせた結果ブリヤンスク州だけで28箇所その他近接の地域を含めて3,900ヘクタールにおよぶという。グリーンピース担当者は「少量の放射性物質の影響を過小評価すべきではない」と警告しています。

活動ごよみ

8・24 平和の会理事会（コープ）	9/13,14 日本高齢者大会 in 水戸
9・4 県平常任理事会（水戸市青少年会館）	9・21 平和の会理事会（コープ）
9・4 九条の会あさひ基地見学	

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています
 平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
 早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください